

ノルウェーの暮らしと 修士留学の紹介

オスロ大学修士課程
特別支援教育専攻
河村晏奈

埼玉親善大使レポート 2022 年度②(生活編)

自己紹介: 2021 年 8 月より、ノルウェー・オスロ大学 (Universitet i Oslo) で計 2 年間の修士留学をしている河村晏奈と申します。今回はノルウェーでの生活や文化について紹介したいと思います。



私がオスロに暮らしているととてもいいなと思ったものの一つが、図書館です。オスロに 20 箇所以上ある公共の図書館 Deichman は、"地域の人が集まる場所"になっている気がします。朝 7 時から夜 10 時まで開いていて、平日は午前 10 時頃を過ぎると、保育園や小学校の子どもたちがクラスでやってきて、本を読んだり読み聞かせしてもらったりしている子どもたちでいっぱいになります。赤ちゃんと育休中のお母さん、お父さんもたくさん来ていて、図書館の外はベビーカーでいっぱい。午後や夕方は、児童の放課後の宿題の手伝いやワークショップ、大人のためのアートやノルウェー語教室などのイベントがあります。もちろんゆっくりと本を読んでいる人、勉強している人もいて、居心地がよい図書館です。



世界で最もコーヒーの消費量が多いエリアは北欧といわれています。ノルウェー人もコーヒーをよく飲み、カフェも多いです。チェーン店のカフェもおしゃれな場所がたくさん。ノルウェーは一般的に物価が非常に高く、カフェのブラックコーヒーは一杯 40~50kr (約 600~700 円)、冬の終わりに食べる伝統の菓子パンも一つ 700 円~900 円です。





サウナといえば同じ北欧のフィンランドが発祥で有名ですが、ノルウェーでもサウナは人気です。休暇を山小屋 Hytte（ヒュッテ）で過ごすのが定番のノルウェー人。山小屋にはサウナが備え付けられていて、サウナで温まってからすぐそばの池で泳ぐのだそうです。

オスロ中心地のフィヨルド沿いには公共サウナがいくつかあり、水着を着てサウナに入ります。観光客も地元の人もいて、サウナで温まっては海に飛び込んだり外で涼んだりの繰り返しです。私が訪れた時にお話した地元の女性は、冬の間も出勤前に毎週の朝7時にサウナに来て、フィヨルドに張った氷に開けた穴から水に入っていたそうです。



6月はプライド月間で、オスロでは7月1日にプライドパレードがありました。6月末の9日間は、市庁舎の近くでプライドパークといって、展示、ライブやアクティビティなどの催し物がありました。



パレードの日の夜のニュースでは、パレードに9万人以上が参加したと伝えられていました。オスロの人口が約70万人、ノルウェー全体の人口も550万人しかない（埼玉県の人口より少ないのです！）ので、本当にたくさんの人が3時間半のパレードに参加したのだなと思いました。去年はパレード前日に性的マイノリティーの人を狙ったとされるテロ事件があり、パレード等の様々なイベントが中止になりました。衝撃的な出来事で、そのため人々が様々な思いを抱えて迎えた今年のパレードでした。